

# 地域福祉に関する市民意識調査報告書

芦 屋 市

## 目 次

1 . 調査の概要	2
2 . 調査の結果	7
3 . 単純集計データ	3 8
4 . 調査票	5 0

## 1. 調査の概要

地域福祉計画策定に当たり、平成 18 年 8 月に、「地域福祉に関する市民意識調査」を実施しました。

### 調査の方法

調査は、20 歳以上の外国人登録者を含む市内在住 2,500 人（無作為抽出）に対し調査票を郵送、973 件を郵送で回収。

### 調査の時期

平成 18 年 8 月 2 日から 8 月 16 日

### 回収率

転居先不明等の返送分 16 件を除く回収率は約 39.2%で、うち有効調査票は 951 件でした。

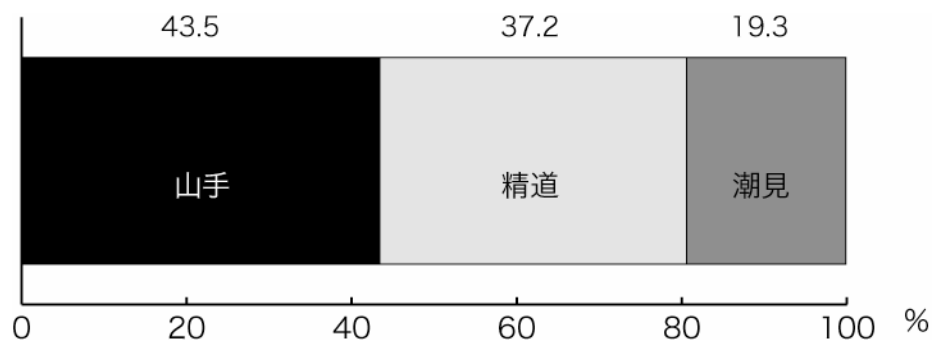
### 集計について

なお、単数回答の質問については、無回答の数が多いものを除いて、基本的に有効パーセントを使用しています。合計パーセントが 100%を超えるものは、複数回答の質問です。

### 回答者の属性

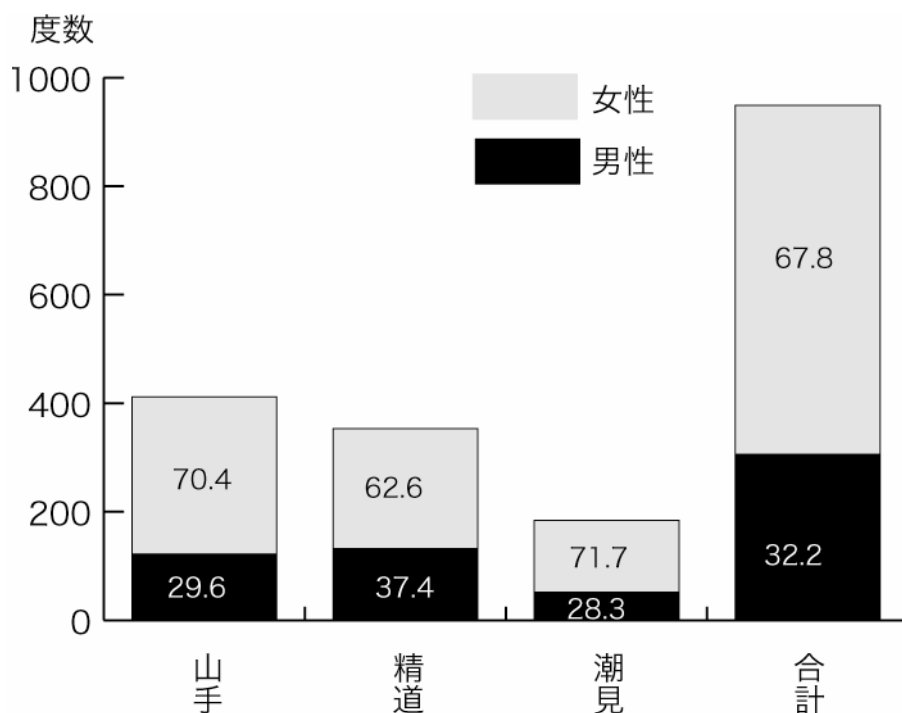
地域別では、中学校区別の人口比に近いバランスでの回答が得られました。平成 18 年 8 月 1 日現在住民基本台帳人口の中学校区ごとの人口割合は、山手中学校区 44.8%、精道中学校区 37.1%、潮見中学校区 18.1%であり、今回の回答者の割合もほぼそれに近いものになりました。

回答者の居住地 中学校区別



男女別に見ると，8月1日現在の推計人口は91,539人で，男性41,845人，女性49,694人であり，男女比は男45.7%，女54.3%であるのに対し，男性32.2%，女性67.8%と女性の回答率が圧倒的に高くなりました。

男女比 中学校区別

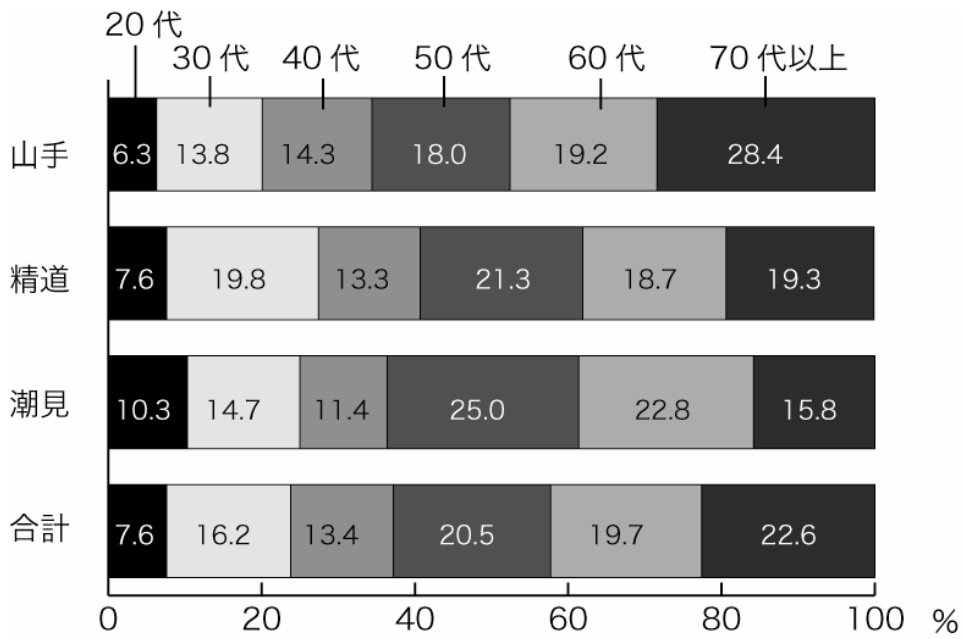


年齢別では，8月1日現在住基人口の年代別割合は，20代11.1%，30代16.4%，40代13.2%，50代14.9%，60代12.4%，70代以上14.8%であるのに対して，回答者の年代別割合は20代7.6%，30代16.2%，40代13.4%，50代20.5%，60代19.7%，70代以上22.6%となっており，50代以上の回答率が高くなっています。

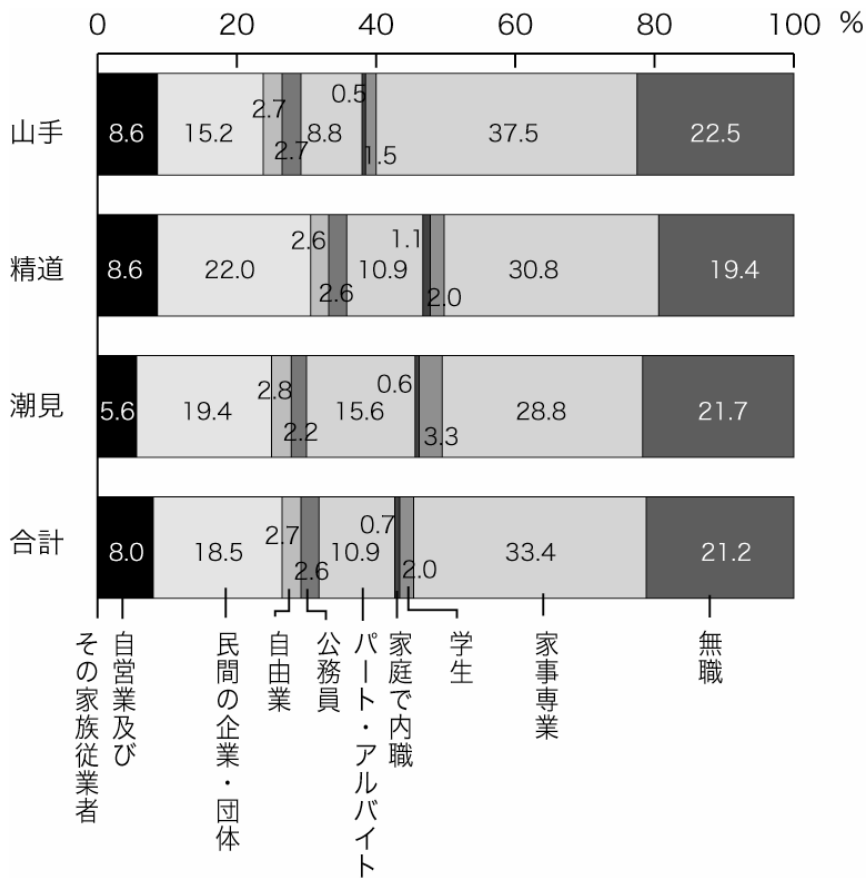
回答者の住まいの形態は，持ち家が78.8%で，震災前から芦屋に居住している人は，48.0%と半数を割っています。

回答者の家族構成は，一人暮らしまたは夫婦のみの世帯が約半数で，18歳未満の子どもがいる世帯は20.3%となっています。

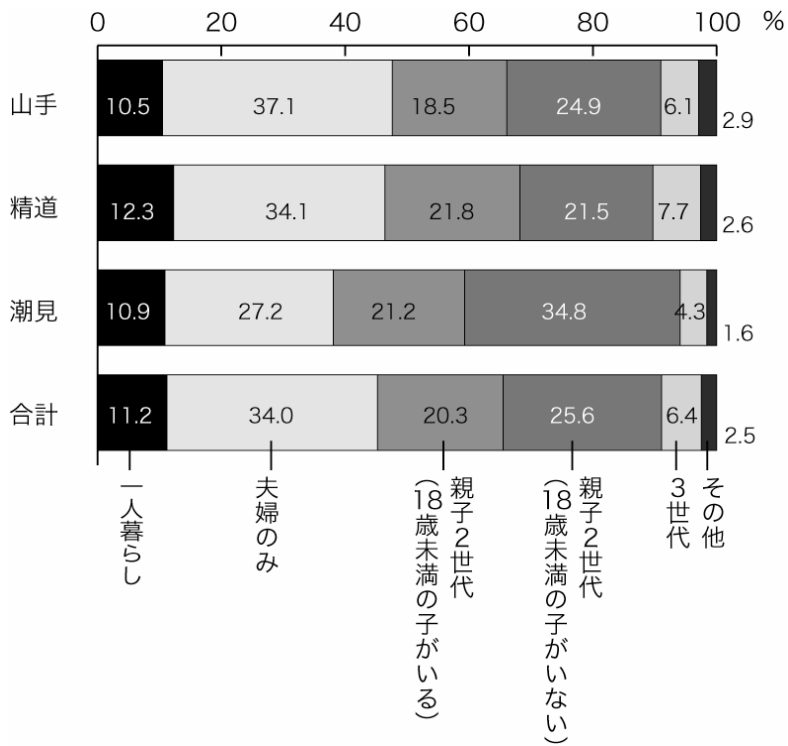
回答者の年齢 中学校区別



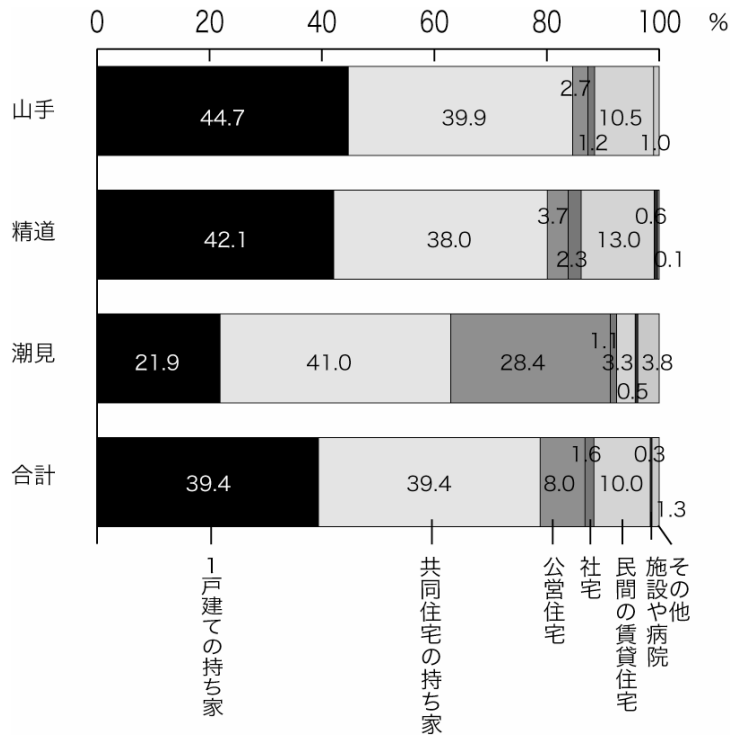
回答者の職業 中学校区別



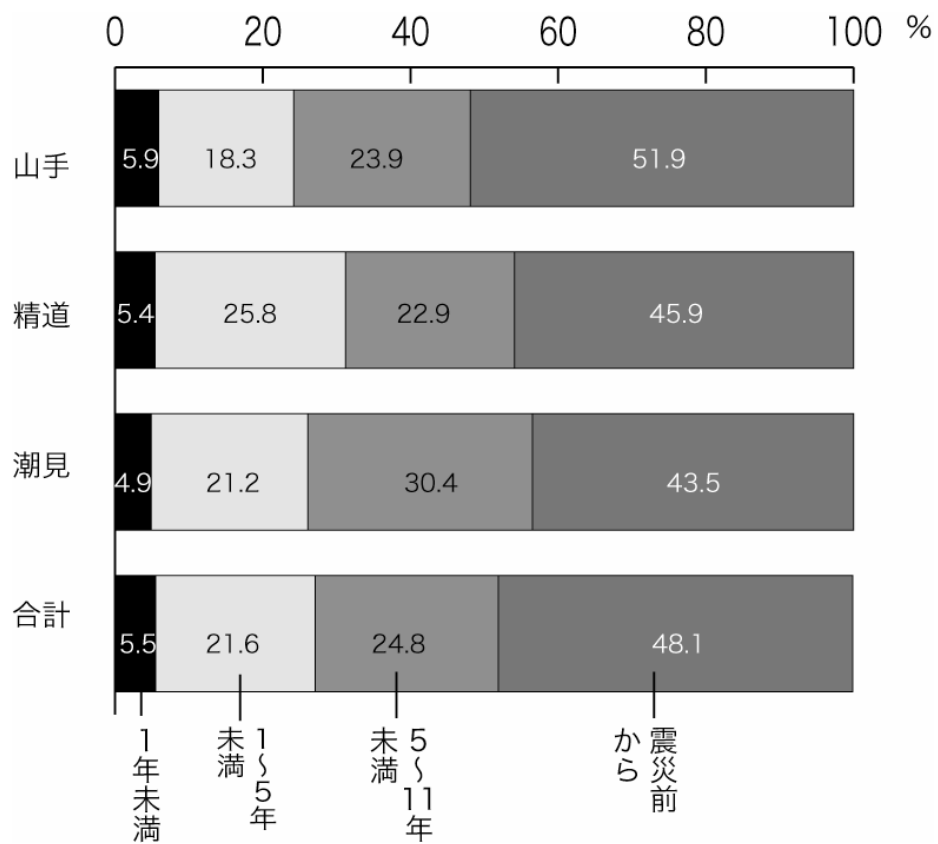
### 回答者の家族構成 中学校区別



### 回答者の住まいの形態 中学校区別



回答者の居住年数 中学校区別



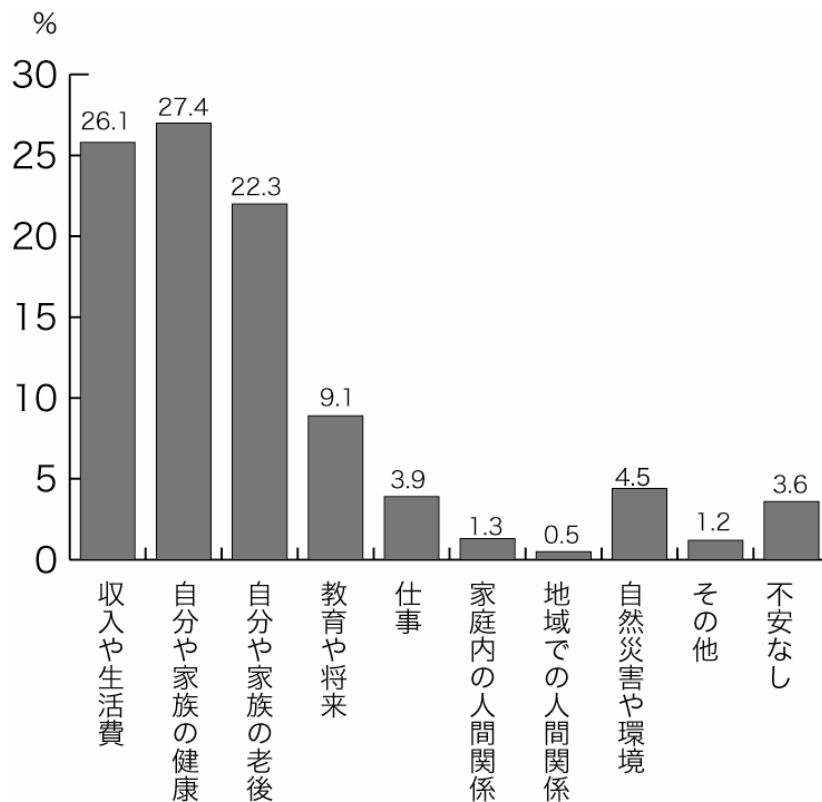
## 2. 調査の結果

問1 あなたが日常生活でどのような不安を感じておられるか、不安の度合いの大きいものから順番に3つ以内でお答えください。

### 日常生活での不安について

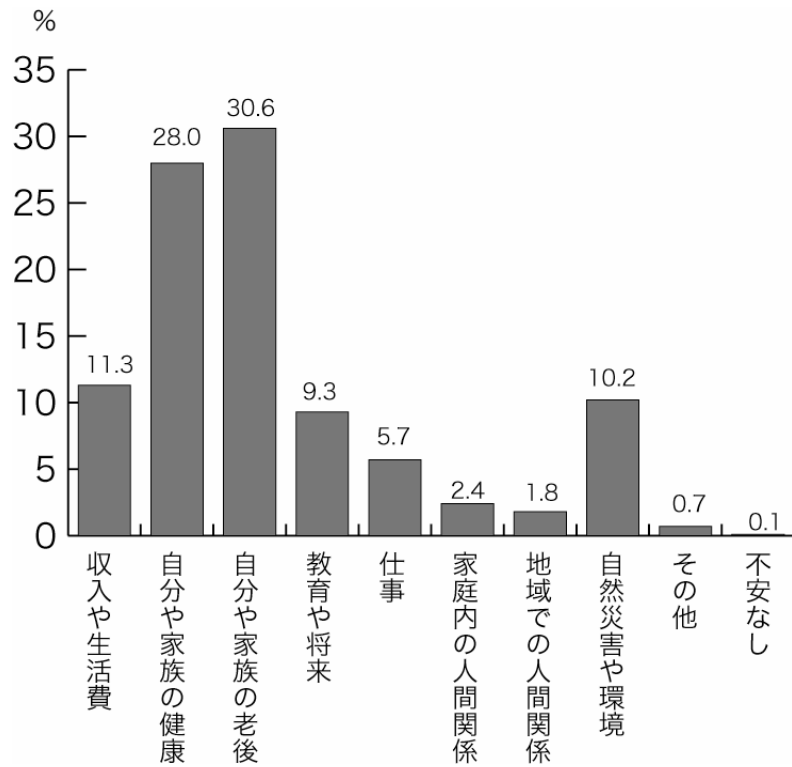
不安の度合いの高いのは、第1番目が「自分や家族の健康」27.4%、「収入や生活費」26.1%、「自分や家族の老後」22.3%の順でした。第2番目は、「老後」30.6%、「健康」28.0%「収入」11.3%と順位が入れ替わり、第3番目では「自然環境や災害」24.9%が最も多くなりました。

第1番目の不安

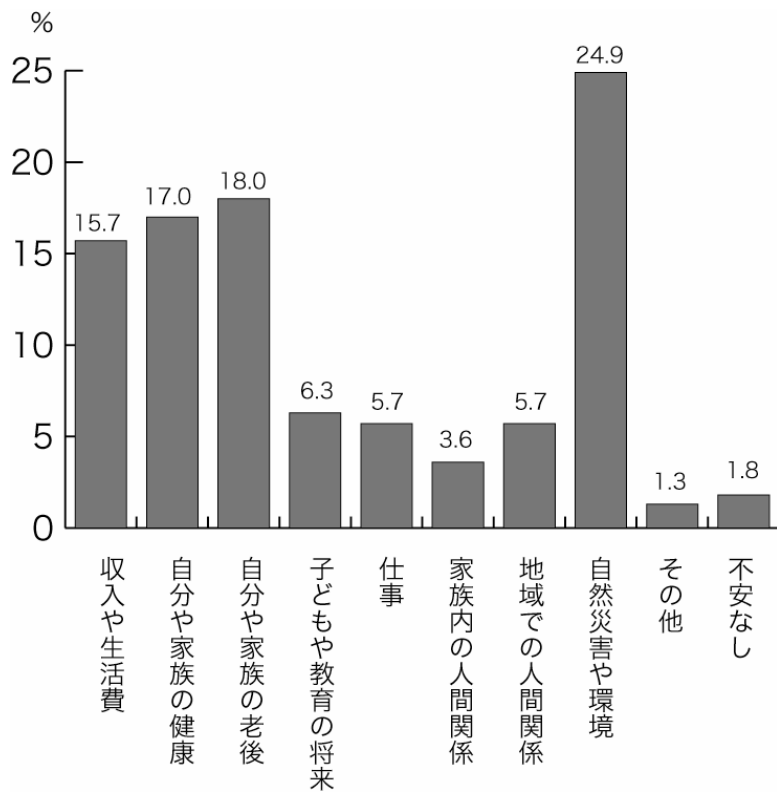




### 第2番目の不安



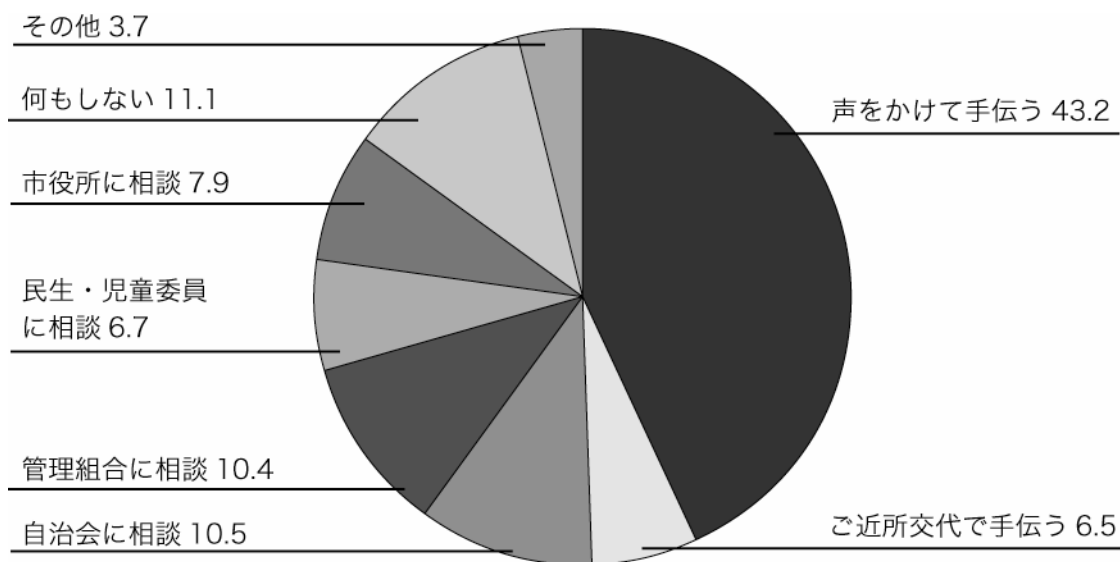
### 第3番目の不安



問2 地域で暮らしていると色々な問題が出てくると思いますが、例えばご近所のお一人暮らしの高齢者が、週2回の朝のごみ出しに困っているとき、あなたはどのようにしますか。（単数回答）

#### 地域での助け合いについて

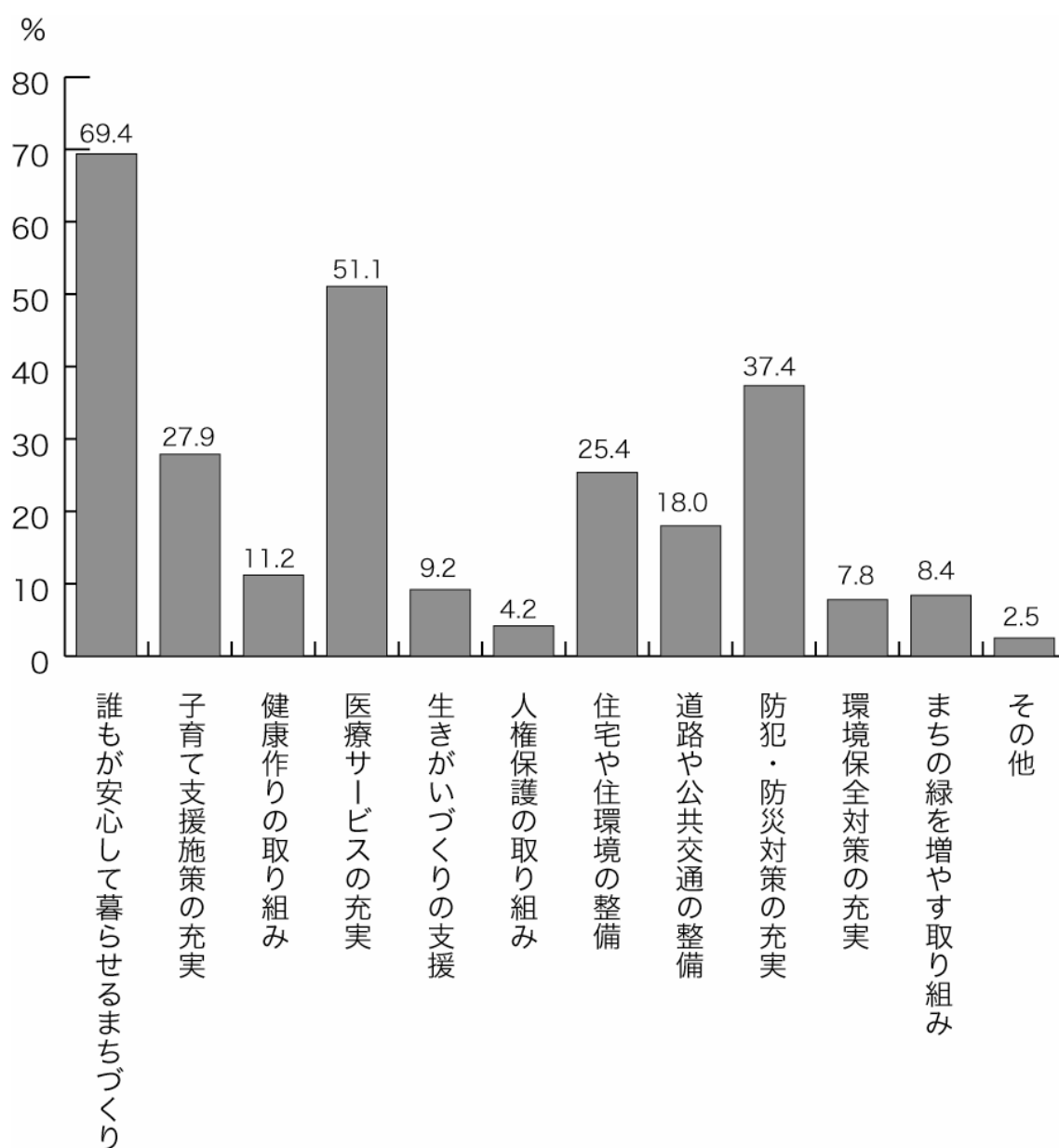
「声をかけて手伝う」の回答が43.2%，逆に「何もしない」が11.1%。「管理組合に相談」「自治会に相談」「市役所に相談」等をあわせて「どこかに相談する」という回答は約35%でした。



問3 日頃の生活の中で、ふだんの暮らしをよりよくするために芦屋市が力を入れて取り組むべきだと、あなたがお考えのことは何ですか。(回答は3つ以内)

#### 芦屋市が力を入れて取り組むべきこと

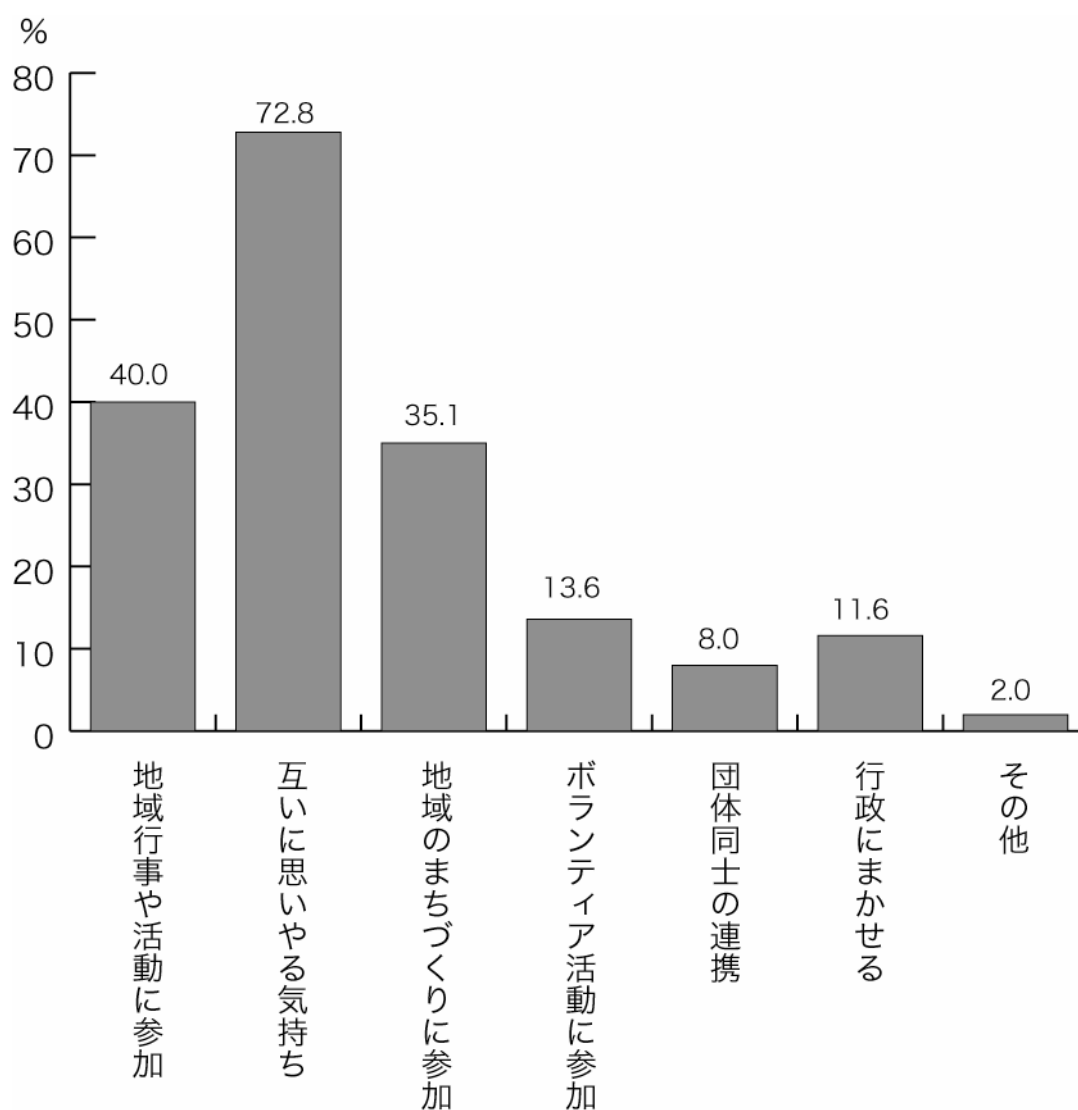
多いものから順に、「高齢になっても障がいがあっても（誰もが）安心して暮らせるまちづくり」を69.4%、「医療サービスの充実」を51.1%、「防犯・防災対策の充実」を37.4%の方が選択しています。



問4 住み慣れた地域で暮らし続けるために、住民自身はどうすればよいとお考えですか。（回答は3つ以内）

#### 住民自身はどうすればよいと考えるか

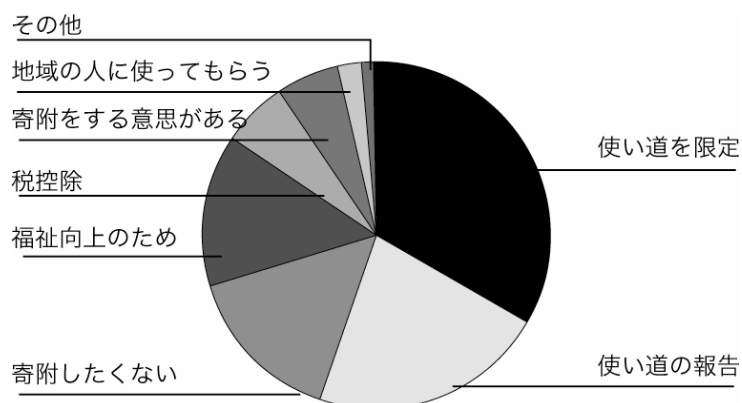
多いものから順に、「互いの生き方を尊重し、地域で孤立する人がないよう互いに思いやりの気持ちを持つ」を72.8%、「地域行事や活動に積極的に参加」を40.0%、「行政機関と連携をとりながら、地域のまちづくりに積極的に参加」を35.1%の方が選択しました。また、「行政にまかせる」という回答は11.6%でした。



問5 色々な「寄附」による社会貢献について、あなたはどのようにお考えですか。（単数回答）

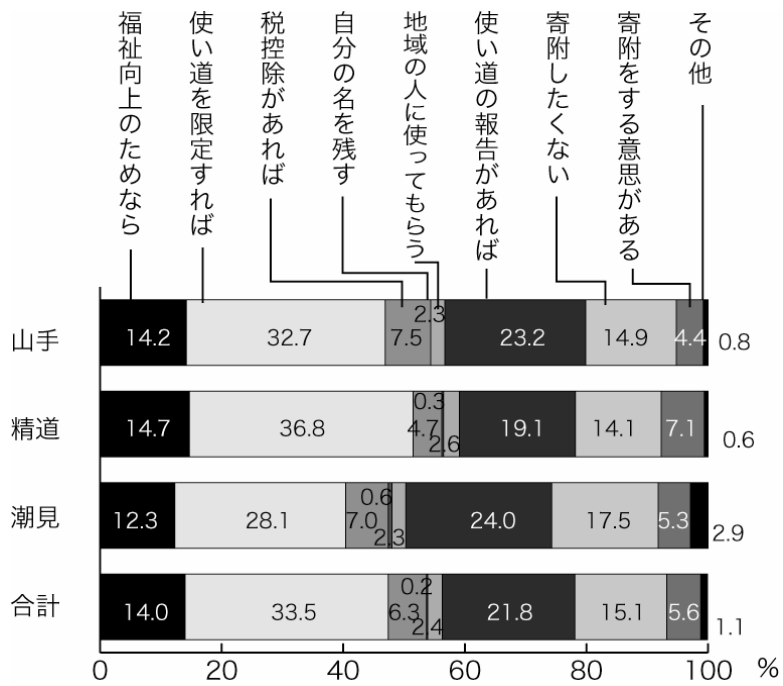
「寄附」による社会貢献について

「使い道を限定」したり、「使い道を報告」すれば寄附してもよいとの回答が、あわせて52%を超えました。「寄附したくない」14.3%に、「その他」1.1%、「無回答」5.5%を合わせた20.9%を寄附したくない意向であると考えても、回答者の約8割の方がなんらかの形の寄附による社会貢献の意向を持っているとの結果が出ました。

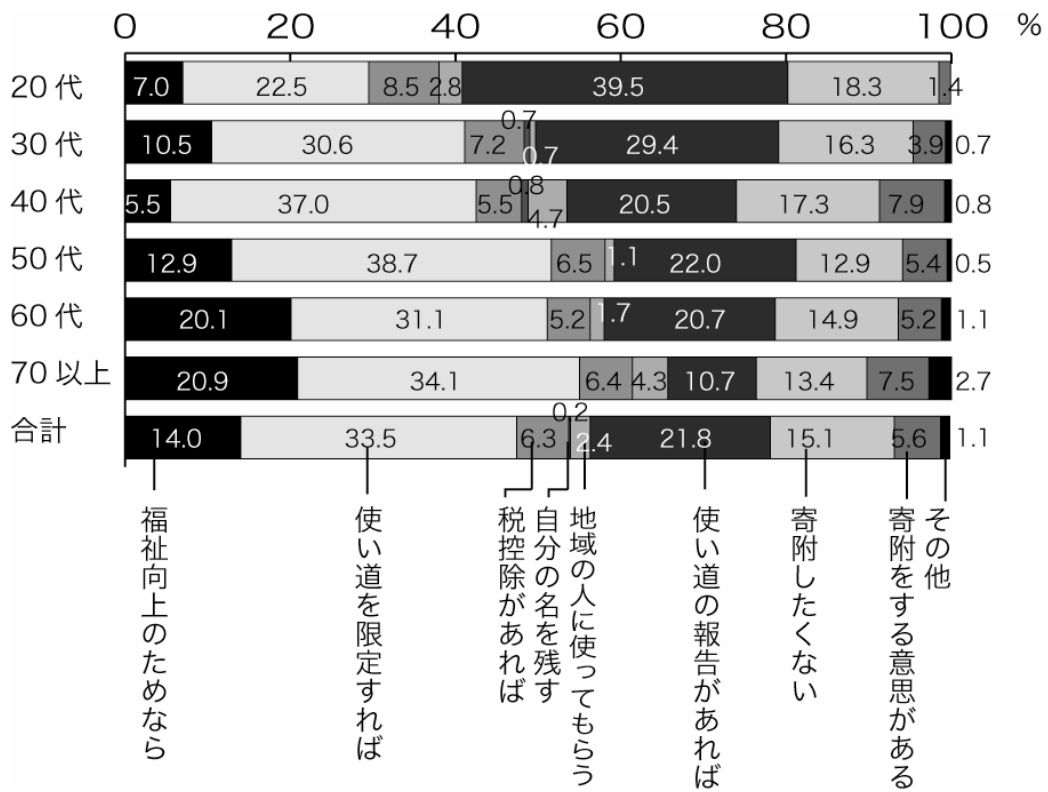


	度数	パーセント	有効パーセント
福祉向上のため	126	13.2	14.0
使い道を限定	300	31.5	33.5
税控除	57	6.0	6.3
自分の名を残す	2	.2	.2
地域の人に使ってもら	22	2.3	2.4
使い道の報告	196	20.6	21.8
寄附したくない	136	14.3	15.1
寄附をする意思がある	50	5.3	5.6
その他	10	1.1	1.1
合計	899		100.0
無回答	52	5.5	
合計	951	100.0	

### 寄附の意向 中学別



### 寄附の意向 年齢別

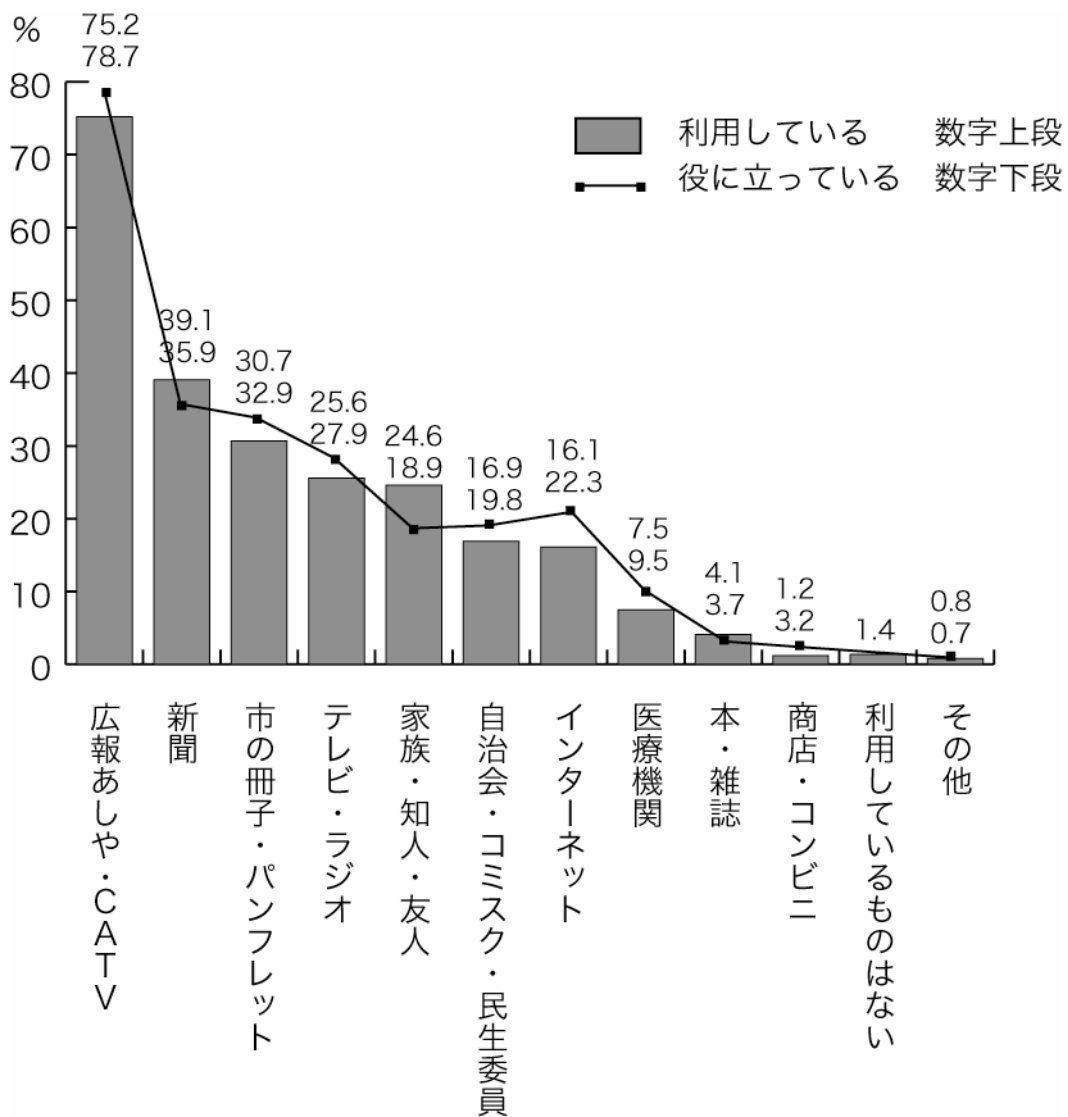


問6 あなたが福祉の情報を得るのに、普段利用しているもの、また役に立つと考えるものは何ですか。(回答は3つ以内)

福祉の情報について

普段利用しているものは多いものから順に、「広報あしや・CATV」を75.2%、「新聞」を39.1%、「市の冊子・パンフレット」を30.7%の方が選択し、次いで多いのが、「テレビ・ラジオ」25.6%、「家族や知人の口コミ」24.6%でした。

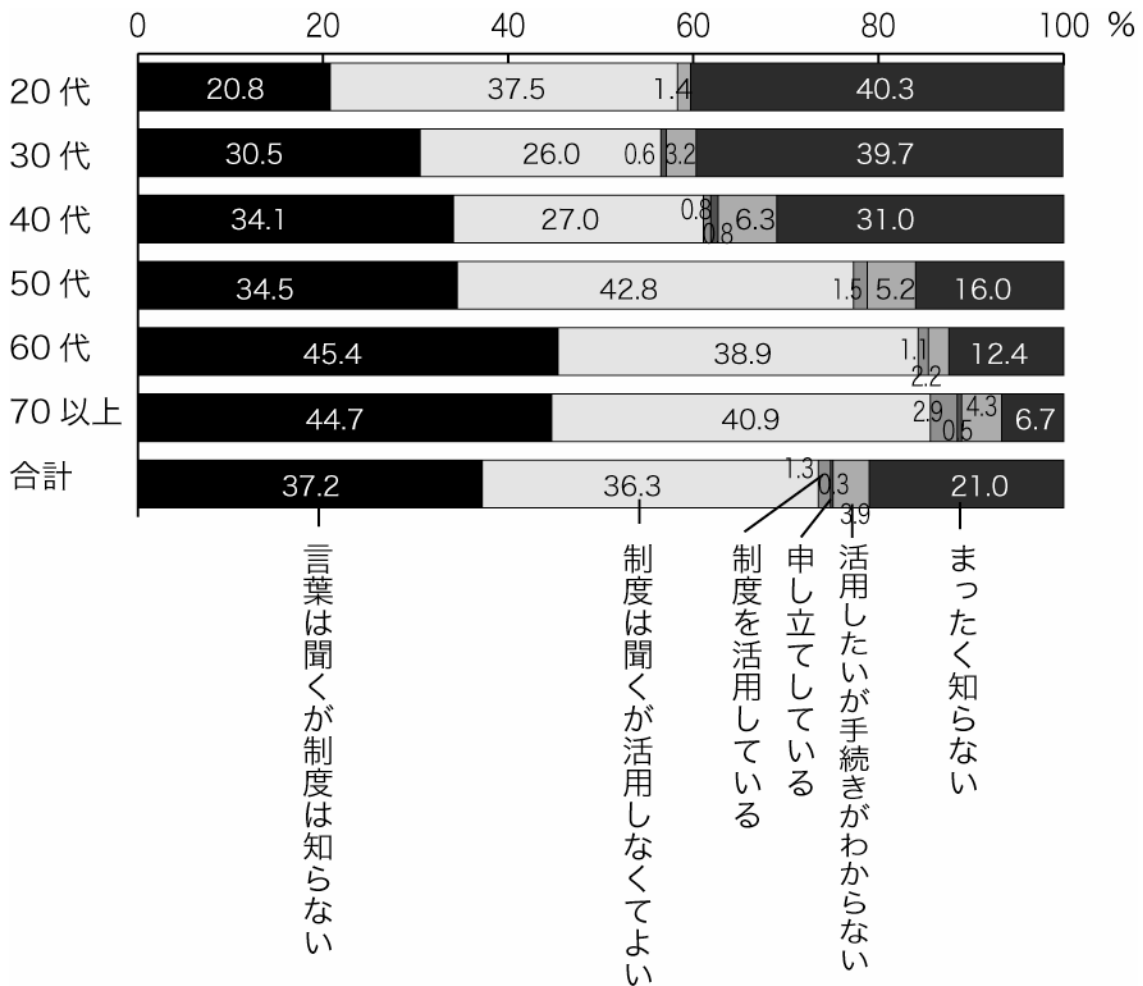
役に立つと思うものもよく利用しているものと同じ順位で、多いものから順に「広報あしや・CATV」78.7%、「新聞」35.9%、「市の冊子・パンフレット」32.9%となった。



問7 「成年後見制度」とは、本人が障がいや認知症などで判断能力が十分でない場合、本人に代わって家庭裁判所が決める法定後見人が財産管理や介護サービス契約などを行うことができる制度ですが、あなたはこの制度について知っていますか。（単数回答）

「成年後見制度」について

「言葉は聞くが制度は知らない」「まったく知らない」をあわせると、58.2%の方が成年後見制度を知らないという結果となりました。また、「制度は知っているが今のところ活用しなくてよい」が36.3%、「活用している」「手続き中」「活用したいが手続きが分からない」をあわせて6%未満でした。

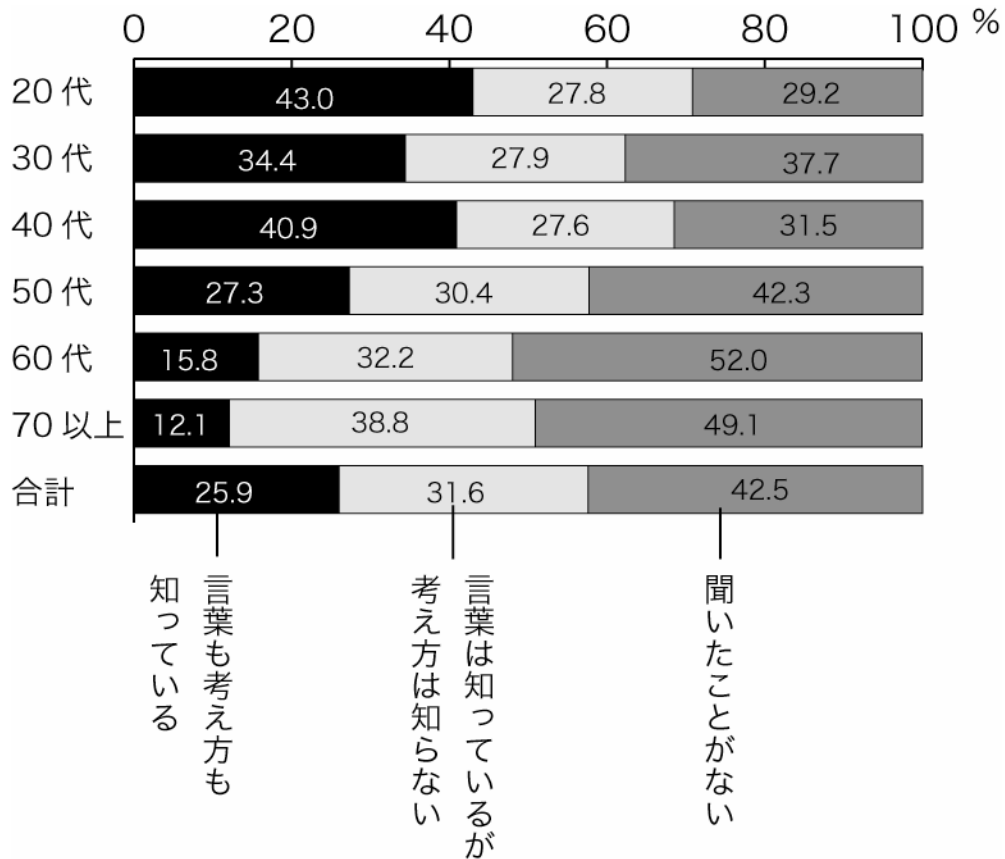




問8 ユニバーサルデザインは、年齢、性別、文化、身体状況など人がもつ様々な個性や違いに関わらず、誰もが利用しやすいように、まちづくり、ものづくり、仕組みづくりなどを行っていかこうとする考え方ですが、あなたはこの言葉や考え方を知っていますか。(単数回答)

ユニバーサルデザインについて

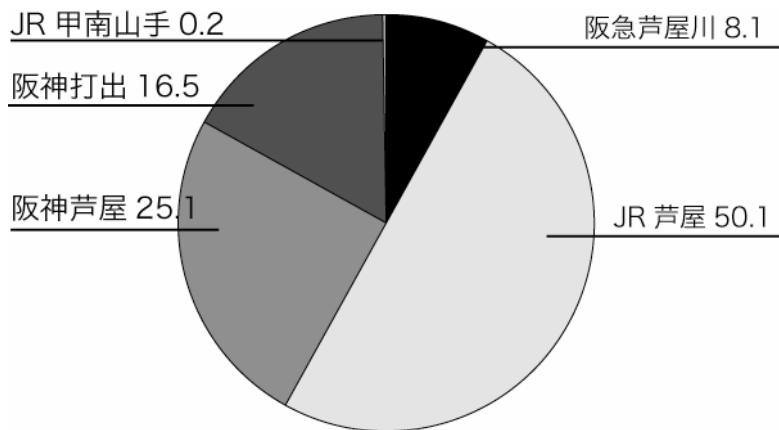
「聞いたことがない」42.5%、「言葉は知っているが考え方は知らない」31.6%、「言葉も考え方も知っている」25.9%と、ユニバーサルデザインという概念があまり知られていないことがうかがえます。



問9 あなたが普段最もよく利用する鉄道駅は、どこですか。（単数回答）

普段最もよく利用する鉄道駅について

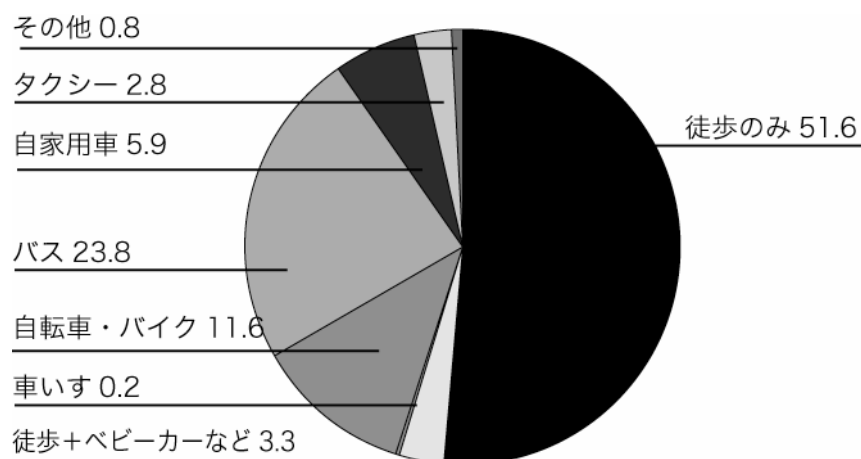
J R 芦屋 50.1% , 阪神芦屋 25.1% , 阪神打出 16.5% , 阪急芦屋川 8.1% の順でした。



問10 自宅からその利用駅までは主に何を利用されますか。（単数回答）

自宅から駅までの移動手段について

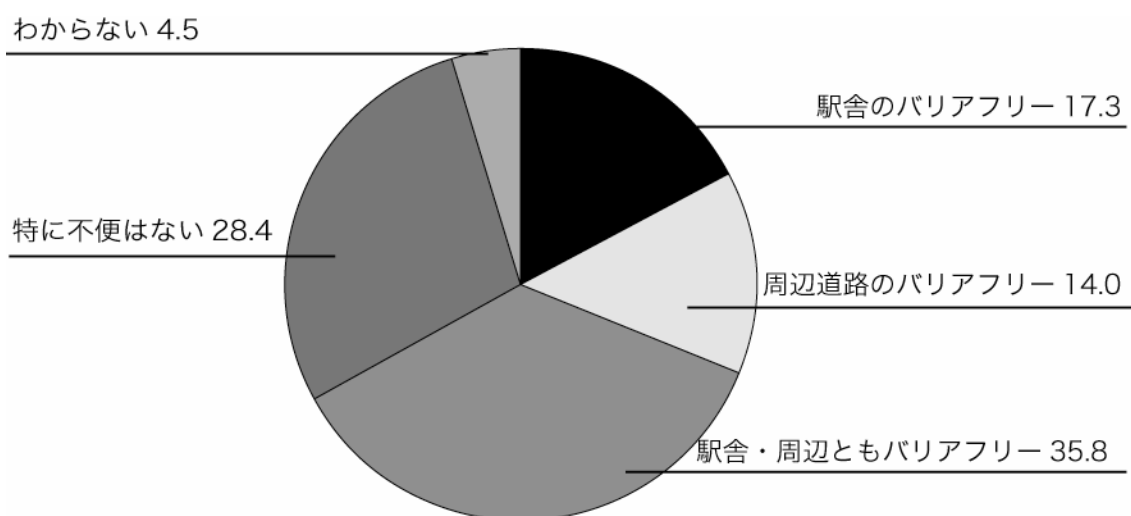
徒歩のみが 51.6%。続いてバスが 23.8% , 自転車・バイク利用が 11.6% の結果でした。車いすやベビーカーの利用者はあわせて 3.5% でした。



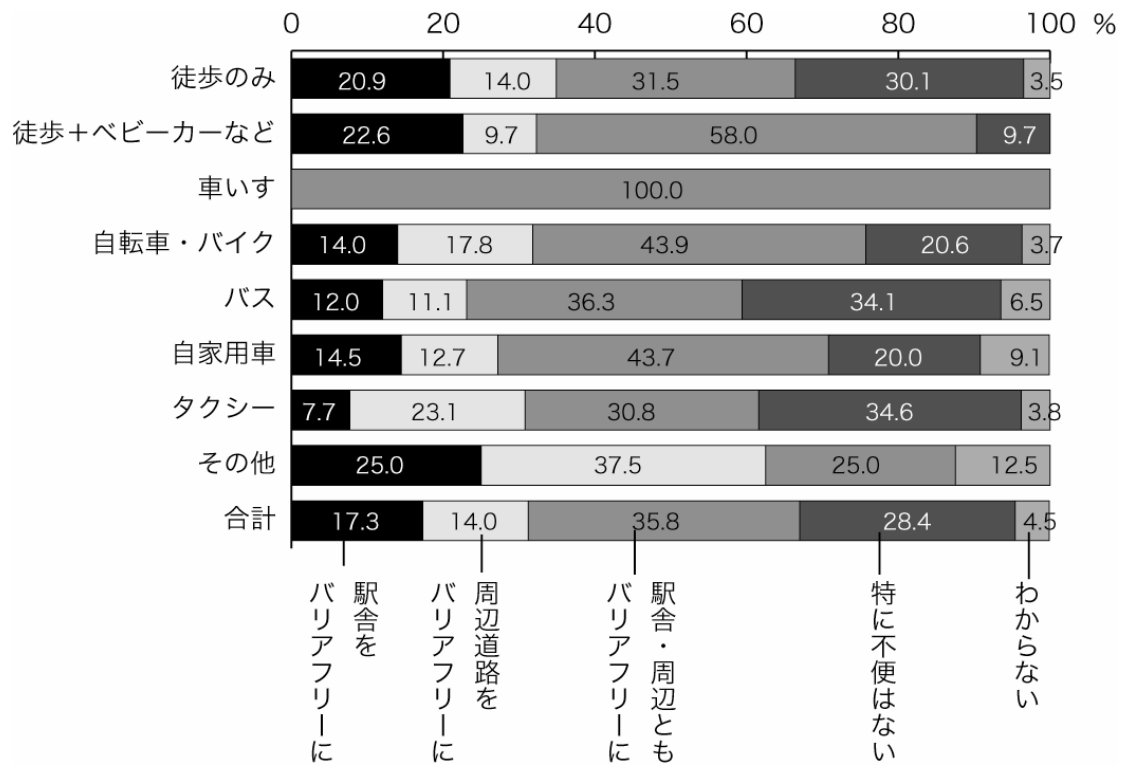
問11 最もよく利用する駅舎や駅周辺道路（駅前広場を含む）について、歩きやすさや使いやすさの観点からバリアフリー化をどのようにお感じですか。（単数回答）

#### 最もよく利用する駅のバリアフリー化について

駅舎や駅周辺のバリアフリーについては「特に不便はない」との回答は28.4%で、67%の方がバリアフリー化の必要性を感じていることがわかりました。



### 移動手段別 バリアフリー化の必要性



### 利用駅別 バリアフリー化の必要性

